



次代へつなぐ定置網漁

石川県農林水産部水産課漁業管理グループ 専門員 田中正隆

燃油高騰や魚価安、後継者不足といった、
 とかく暗い話題に包まれがちな水産業界に
 あって、意欲に満ちた元気溢れる定置網漁
 業者の酒井秀信さん(65歳)を紹介します。

酒井さんが代表を務める「鹿渡島定置」
 は石川県能登半島中部に位置する七尾市鶴
 浦町を拠点に、富山湾の2か所の漁場で定
 置網漁を営んでいます。創業は平成4年、
 現在、従業員15名の平均年齢は34歳で、20
 歳代が最も多い若手中心の会社です。マア
 ジ・フクラギ(ブリの小型魚)・イワシ類・
 イカ類を中心に年間約300トンの水揚げし
 ていますが、いち早く流動氷(シャーベッ
 ト状の氷)を導入し、漁獲物の鮮度管理に
 はとりわけ気を配っています。

酒井さんのことを表現するとすれば、「収
 益安定のための限りない向上心」と「後継

者育成のための献身的な努力」の二点に集
 約されると思います。

農協直売所や宅配便での直販、移動販売
 車やイベントでの対面販売、インターネット
 中継販売とのタイアップ、県内外の商談
 会での商品PR、未利用魚・低価格魚の加
 工、米国等海外への水産物輸出、金庫網を
 利用した出荷調整、神経締めを導入、漁業
 被害の原因となる大型クラゲ・ミズクラゲ
 の有効活用…、これらはすべて酒井さんが
 実際に手掛けてきた収益向上のための取組
 です。市場出荷のみでは安定経営が難しい
 状況において、こうした漁獲物の付加価値
 を高め、販路を拡大する経営の多角化戦略
 は、時宜を得たものといえます。

平成25年5月には、県内の水産業として
 は初めてとなる、6次産業化・地産地消法



鹿渡島定置のクルー。前列一番左が酒井さん。会
 社の平均年齢は34歳と若い。



自社で開発した魚醤油「いしる」(イカ、イワシ、
 季節毎に使う魚を変えるブレンドの3種類)。

に基づく総合化事業計画の認定を受けられました。計画にも位置づけられた、神経締めした鮮魚の売上は平成24年には390万円だったのが、平成25年には1,000万円を超えるまでに伸びており、また、干物・みりん干し・酢漬け・つみれ・魚醤油といった加工品は30種類以上にも及び、こうした直販による売上は会社の全体収入の3割近くを占めるまでに成長しているとのこと。ちなみに、神経締めは定置網からタモで掬い上げて速やかに船上で施し、加工品も材料となる魚を水揚げ後すぐに加工場で一次処理するという、漁師ならではの鮮度の良さを売りにしているそうです。

10名を超える船頭の育成・輩出、従業員の漁業士取得の促進、他の定置網漁業者を対象にした出張講義、県内外及び海外からの研修生の現地受け入れ、台湾・スリランカ等海外への定置網操業技術の伝授・交流、定置網設計・敷設マニュアルの普及、定置網の海上での台風対策、資源管理を目的としたタモ一杯運動（小型魚の再放流）の推進、地震被災地への漁業物資支援…、これ

らもすべて酒井さんが実践してきた取組です。

自社の従業員に対してだけでなく、国内外を問わず幅広く、ご自身が積み重ねてきた経験に裏付けされたノウハウを限りなく伝授するという理念を持たれています。また、「仕事は先輩の背中を見て盗め」という職人的な考え方ではなく、独自の漁労マニュアルを作成し、分かりやすい解説をするとともに、取組に対する若手従業員の提案も積極的に採用するそうです。

酒井さんが繰り返しおっしゃることがあります。「従業員みんなが楽しく、将来まで夢を持てるような仕事をしたい。そのためには、今の状態に満足せず、とにかくできることは実行したい。」考えだけで終わることなく、絶えず走り続ける酒井さんを見ると、沿岸漁業のビジネスモデルのあり方のヒントが得られる気がします。



若手従業員へ定置網のノウハウを懇切丁寧に教える。

逃がした魚は
大きくなる!

定置網に逃げ込んだ魚種を
タモですくい逃がす運動です。

石川県定置網漁業振興協議会主催

ブリ・マダイ等の小型魚（市況単価：50円/kg以下を目安）を魚捕り部からタモ網で逃がす全県的取組を推奨。